

One-off sessions

地域歯科医療シンポジウム | オンデマンド動画

歯科口腔保健事業における『保健事業と介護予防の一体的な実施』を考える

座長:平野 浩彦(東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科)

[SY2-OP] 挨拶

[SY2-1] 地域歯科医療や歯科保健事業に関する国の動向について

○田上 真理子¹ (1. 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐)

[SY2-2] 「保健事業と介護予防の一体的な実施」への日本歯科医師会の対応

○小玉 剛¹ (1. 公益社団法人 日本歯科医師会常務理事)

[SY2-3] 都市部での展開：東京都における通いの場を中心とした取り組み

○白部 麻樹¹ (1. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター)

[SY2-4] 結果、健康！なまちづくり

～医療介護専門職がボランティアで参加する

スーパー買い物ツアー～

○木村 年秀¹ (1. まんのう町国民健康保険造田歯科診療所)

地域歯科医療シンポジウム | オンデマンド動画

歯科口腔保健事業における『保健事業と介護予防の一体的な実施』を考える

座長:平野 浩彦(東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科)

【略歴】

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士

平成2年:

東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医

平成3年:

国立東京第二病院 口腔外科 研修医

平成4年:

東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事

平成14年:

同センター医長

(東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更)

平成21年:

東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長

平成28年:

東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科 部長

平成31年~:

現職

日本老年学会 理事

日本サルコペニア・フレイル学会 理事

日本老年歯科医学会 理事・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師

日本老年医学会 代議員

日本大学 客員教授・東京歯科大学 非常勤講師・昭和大学歯学部 非常勤講師

○著書など

- ・歯科診療所における オーラルフレイル対応マニュアル (共著) 日本歯科医師会
- ・フレイルの専門医が教える 舌を鍛えると長生きできる! PHP研究所
- ・実践!オーラルフレイル対応マニュアル (編者) 東京都福祉保健財団
- ・オーラルフレイルQ&A一口からはじまる健康長寿 (共著) 医学情報社
- ・認知症高齢者への食支援と口腔ケア (編者) ワールドプランニング
- ・歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本 ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア (編者) 医歯薬出版
- ・認知症の人への歯科治療ガイドライン (編者) 医歯薬出版
- ・認知症の緩和ケア (共著) 南山堂
- ・口腔の緩和医療・緩和ケア (編者) 永末書店

[SY2-OP] 挨拶

[SY2-1] 地域歯科医療や歯科保健事業に関する国の動向について

○田上 真理子¹ (1. 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐)

[SY2-2] 「保健事業と介護予防の一体的な実施」への日本歯科医師会の対応

○小玉 剛¹ (1. 公益社団法人 日本歯科医師会常務理事)

[SY2-3] 都市部での展開：東京都における通いの場を中心とした取り組み

○白部 麻樹¹（1. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター）

[SY2-4] 結果、健康！なまちづくり

～医療介護専門職がボランティアで参加するスーパー買い物ツアー～

○木村 年秀¹（1. まんのう町国民健康保険造田歯科診療所）

[SY2-OP] 挨拶

[SY2-1] 地域歯科医療や歯科保健事業に関する国の動向について

○田上 真理子¹ (1. 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐)

【略歴】

2010年3月：

鹿児島大学歯学部 卒業

2011年3月：

東京医科歯科大学歯学部附属病院 臨床研修修了

2015年3月：

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

高齢者歯科学分野（旧全部床義歯補綴学分野）博士課程修了

2015年4月：

東京医科歯科大学歯学部附属病院 高齢者歯科学分野 医員

2017年4月：

東京医科歯科大学歯学部附属病院 高齢者歯科学分野 非常勤講師

2018年4月：

厚生労働省入省後、保険局医療課医療指導監査室 医療指導監査官

2019年7月：

厚生労働省老健局老人保健課 医療・介護連携技術推進官

2020年8月：

厚生労働省医政局歯科保健課 課長補佐（現職）

（所属学会）

公益社団法人日本補綴歯科学会 専門医（論文査読中）

一般社団法人日本老年歯科医学会 会員

人生100年時代の到来を見据え、国民が全ての年代において健康で活躍し安心できる全世代型の社会保障が求められている。特に、2040年頃には高齢者人口がピークを迎え、現役世代が急激に減少するため、いかに社会全体の活力の維持・向上を図っていくかが重要な課題となる。

こうした課題に対しては、高齢者を含めた国民誰もが、よりよく元気に活躍できるような基盤の一つとして、日常生活に制限のない期間である健康寿命の延伸が必要であり、令和元年、厚生労働省から「健康寿命延伸プラン」が発表された。この中の介護予防・フレイル対策の一つが、「保健事業と介護予防の一体的な実施」であり、市町村が市民に身近な立場からきめ細かいサービスを提供することができるよう一部法改正を行い、75歳以上高齢者に対する後期高齢者広域連合の保健事業を、市町村が介護保険の地域支援事業等と一体的に実施することができるよう、国、広域連合、市町村の役割等について定めるとともに、市町村等において、各高齢者の医療・健診・介護情報等を一括して把握できるよう規定の整備等が行われた。

実際に、市町村が保健事業と介護予防を一体的に実施するイメージとしては、まず、地域において事業全体のコーディネートを医療専門職が担い、医療・介護データを分析して健康課題を把握するとともに、健康課題を抱える高齢者等を特定し、必要に応じてアウトリーチ（訪問型）支援を行いながら、医療介護サービスにつなげる

ようにしていく。また、これまで保健事業で行っていた疾病予防・重症化予防と併せて介護予防も行っていく。さらに、地域の医療関係団体等と連携を図りながら、医療専門職が通いの場等にも積極的に関与することを推進し、フレイル予防にも着眼した高齢者への支援を行っていくという流れになる。このような取組を効果的・効率的に行っていくため、地域の医療関係団体や医療専門職には、具体的なメニューや事業全体に対する助言や指導が今後期待される。歯科医師や歯科衛生士においても、口腔機能や食生活等のQOLの観点だけではなく、口腔の健康と全身の健康との関係性の観点から、口腔の健康づくりに関する助言等が重要となってくる。

また、現在の新型コロナウイルスの感染拡大下において、地域歯科医療や歯科保健事業を国民に継続して提供していくために、厚生労働省が示している感染防止対策等についてもお伝えしたい。

(COI開示：なし)

[SY2-2] 「保健事業と介護予防の一体的な実施」への日本歯科医師会の対応

○小玉 剛¹ (1. 公益社団法人 日本歯科医師会常務理事)

【略歴】

1983年：

城西歯科大学（現・明海大学）歯学部 卒業

1985年：

こだま歯科医院 開設

1989年：

東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了 歯学博士

1991年：

東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 非常勤講師（～2011年）

1993年：

東京医科歯科大学歯学部 非常勤講師（～1997年）

2005年：

明治薬科大学 客員教授（～2016年）

2013年：

一般社団法人 東京都東久留米市歯科医師会 会長（～2017年）

2016年：

公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事

日本プライマリ・ケア連合学会 多職種協働委員会委員

社会歯科学会 副理事長

一般社団法人 日本老年歯科医学会 在宅歯科医療問題検討委員会副委員長

2020（令和2）年4月より「高齢者の保健事業と介護予防事業」が市町村で一体的に実施されている。高齢者が集まる「通いの場（サロン）」を中心に、フレイル予防、オーラルフレイル対策により疾病予防・重症化予防につなげて、国民の健康寿命を延伸することが目的である。このために、国保データベース（KDB）から医療・健診・介護情報等を把握し、「後期高齢者の質問票」を組み合わせることで健康状態を評価する。

「通いの場」では運動・口腔・栄養等について、歯科衛生士が保健師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリテーション職種と協働し、必要な場合には「かかりつけ歯科医」に接続する。

歯科診療所では「通いの場」への参加を勧奨し、適切な歯科保健医療の提供により、「口のささいなトラブル」、「口の機能低下」、さらに「食べる機能の障害」に対応する。すなわち、かかりつけ歯科医による口腔機

能低下症、口腔機能障害の診断と処置や病院歯科との連携も重要である。さらに社会的な虚弱、精神心理・認知の虚弱による閉じこもりや孤立した住民に対して、保健・福祉専門職等と連携しながらのアウトリーチも重要な対応の一つであろう。

また地域の歯科医師会は、市町村行政とも連携を深め、事業計画立案の段階から関与することが求められている。

日本歯科医師会は、オーラルフレイルの周知を目的に、2018（平成30）年に国民向けリーフレットを作成した。2019（令和元）年には歯科医師向けに「歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル2019年版」を作成し、2020（令和2）年4月には、オーラルフレイル対策の現場での担い手となる市町村や保健所向けに、「通いの場で活かすオーラルフレイル対応マニュアル ～高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて～ 2020年版」を作成し、本会 HPにも掲載した。

歯科専門職種だけでなく、地域の行政、多職種の方々、さらに地域住民へ「通いの場」でのオーラルフレイル対策への理解が深まり、「保健事業と介護予防の一体的な実施」の成果が上がることを期待される。

[SY2-3] 都市部での展開：東京都における通いの場を中心とした取り組み

○白部 麻樹¹（1. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター）

【略歴】

2013年：

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科 卒業

2015年：

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修士課程 修了

2015年：

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と介護予防研究チーム 非常勤研究員

2017年：

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防推進支援センター 研究員

2018年：

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程 入学

2019年：

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター 研究員

通いの場は、「年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することのできる介護予防活動の地域展開を目指して、市町村が介護予防に資すると判断する住民主体」の場と定められている

（平成31年地域支援事業実施要綱）。また平成26年介護保険法改正以降、通いの場の数および参加率は増加傾向にあり、平成30年度現在106,766か所、65歳以上人口に占める参加率は5.7%となっている。通いの場等における介護予防の取組は、総合事業における一般介護予防事業の中で、地域介護予防活動支援事業の一つとして全国で展開されている。

以上の流れを受け東京都では、地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業（平成26年度開始、厚生労働省）へ平成27年度に参画した。さらに、平成29年度には東京都介護予防推進支援事業の一つとして、介護予防に係る総合的・継続支援を行うことを目的に、東京都介護予防推進支援センター（以下、支援センター）を設置した。支援センターの事業は、介護予防に係る人材育成、派遣調整、相談支援、事業評価・効果検証の4つを柱とし

ている。特に通いの場を中心とした事業で人材育成として、区市町村職員・地域包括支援センター職員・リハビリテーション専門職等を対象に、住民主体の通いの場における支援者の在り方、通いの場づくりの具体的な手法等を学ぶ研修会を開催している。派遣調整では、支援を必要とする区市町村と、通いの場を支援できるリハビリテーション専門職との人材のマッチングを行い、相談支援では、支援センターおよび東京都健康長寿医療センター研究所が連携し、通いの場の立ち上げや展開における課題解決に向けて、エビデンスに基づく専門的助言を行っている。事業評価・効果検証では、都内および全国の通いの場等の介護予防に関する好事例を検証し、その結果を区市町村に還元し、通いの場づくりの推進に活用している。以上のような支援センターの事業を通し、通いの場の数や、協力できるリハ専門職数の増加などに繋がっている。今後はさらなる通いの場の拡大、介護予防・生活支援サービス事業との連動の体制整備に向けた展開が予想される。

通いの場は、令和2年度より順次施行される高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施等においても注目されている地域資源であることから、通いの場づくりを中心とした総合事業の取組について都内の事例を紹介する。（COI開示：なし）

[SY2-4] 結果、健康！なまちづくり

～医療介護専門職がボランティアで参加するスーパー買い物ツアー～

○木村 年秀¹（1. まんのう町国民健康保険造田歯科診療所）

【略歴】

1986年：

岡山大学歯学部 卒業

同年：

岡山大学歯学部 予防歯科学講座 助手

1991年：

島根県美都町国保歯科診療所 所長

1996年：

三豊総合病院 歯科保健センター 医長

2012年：

三豊総合病院企業団 歯科保健センター センター長

2015年：

まんのう町国民健康保険造田歯科診療所 所長

現在に至る

岡山大学歯学部 臨床教授

日本老年歯科医学会（専門医，指導医，代議員）

“移動手段として自家用車を利用していない” 高齢者は低栄養リスクが5.5倍！まんのう町琴南地区で後期高齢者を対象とした調査結果だ。高齢者が運転する車の事故が社会問題となっており，運転免許の自主返納が勧められているが，自身や家族が自家用車を運転できなくなれば，通院や買い物のための移動手段を失ってしまう。歯の治療も食材調達も困難となり，次第にフレイル，低栄養となっていく。調査では食事が楽しくない理由の回答で最も多かったのは「話し相手がいない」で，孤立も低栄養に影響していた。そこで，思いついたのが宅配弁当事業者とのコラボ企画「スーパー買い物ツアー」。高齢者に廃校となった中学校跡に集まっただき，皆で食事

をして、提携したスーパーマーケットにバスで買い物に行く企画だ。昨年5月、配食サービス利用者への声掛けで開始したが、当初の参加者は4, 5名。しかし、月1の回を重ねるごとに、とても楽しいと評判になり、毎回参加者が増加。ボランティアとして「琴南の在宅医療介護の連絡会」のメンバーである医療介護の専門職に協力依頼をしたことで、総勢50名近くが集まるようになった。この通いの場には歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション事業所、居宅介護支援事業所などの専門職が普段着で参加しているの
で、気軽な健康相談の場にもなっている。食事制限され、買い物に乗り気ではなかった糖尿病の利用者には、管理栄養士が付き添いながら食べても良いものを一緒に選び、笑顔がこぼれる場面も見られた。専門職のみならずYouTuberやシンガーソングライターなども参加するようになったことで、楽しくワクワクするイベントとなっていった。みんなで楽しく食べて、おしゃべりして、歌って、買い物、スーパーを歩き回る。このツアーには、運動、口腔、栄養、社会参加のすべての介護予防の要素が含まれている。在宅医療介護を担うメンバーがボランティアとしてかかわっていることを考えると、当地区の地域包括ケアシステム構築の一環であり、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事例となりうるのかもしれない。本シンポジウムでは、「気が付けば健康になれる地域づくり、まちづくり」を目指す我々の取り組みを紹介するので、皆様の地域活動のご参考にしていただければ幸いである。

スーパー買い物ツアー： <https://www.youtube.com/watch?v=dwruLGn2w>

※（COI 開示：なし）